

# ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト ニュースレター



ブルキナファソ国 農業・水資源整備省

独立行政法人 国際協力機構



## ハイライト:

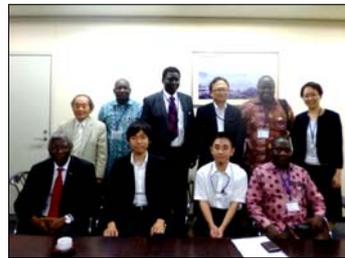
農業省事務次官や局長など4人を対象に本邦研修を実施。研修中には本邦で開催されたプラットフォームにも参加した。

中核農家向けの普及研修が、対象の2州で開始。FFS、FBS、種子生産、組織強化に特化し、理論研修と実践研修(6回)からなる。

## 本邦研修と本邦プラットフォームの実施

6月12日～18日の7日間の日程で、本邦研修（流通分野）を実施しました。農業省事務次官、C/P機関であるDGPER（農業経済振興局）から2名、ゴマ輸出業者協会（ANACES-B）の代表の計4名が参加しました。参加者は日本国内のゴマの業界団体、厚生労働省、神戸検疫所、ゴマ油メーカーなどを視察し、最終日の本邦プラットフォームにおいては、日本のゴマ業界関係者と意見交換を行いました。当初の予想通り、ゴマの残留農薬問題には高い関心が払われ、4名の参加者は改めて残留農薬対策の重要性を認識することになりました。

4名がブルキナファソに帰国後、プロジェクトと協議した結果、本邦研修で得た情報をブルキナファソ内の関係者と共有するために、同国内のプラットフォームの開催に向けて準備することになりました。8月上旬の開催を目指しています。



写真（左から）：①厚生労働省において食品安全部輸入食品安全対策室の梅田課長からの説明。②同室での説明の後、皆で記念撮影。③油糧輸出入協議会にて、日本のゴマ輸入状況の説明。④高松港でフェリーを待つ参加者（右端は事務次官）。⑤かどや製油(株)小豆島工場での説明。



## 目次:

- 本邦研修と本邦プラットフォームの実施 1
- 中核農家向けの研修開始 2
- プロジェクトの技術普及研修の概念 2
- 普及研修の様子 3
- 寄稿「ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト(PRPS-BF)のFFS・FBSの感想」 4

## ↑ 本邦研修の様子→

## ↓ 本邦プラットフォームの様子↘



写真：プラットフォームで発表をした3人。左上から、事務次官、ゴマ輸出業者協会の代表、プロジェクト総括の中垣。



写真：プラットフォーム会場の様子。

## 中核農家向けの研修開始

今年度の中核農家向けの研修を開始しました。中核農家は、プロジェクトの対象州であるBoucle du Mouhoun州（以下、BM州）とHauts-Bassins州（以下、HB州）から各30名ずつ、計60名を選出しました。

研修は理論研修と実践研修に分かれていて、まず理論研修を実施します。理論研修は4日間の日程で、種子生産のための理論と、FFS/FBS<sup>(\*)</sup>のファシリテーターになるための理論を学びます。その後、実際の栽培期に合わせて実践研修（全6回）を行います。実践研修では、FFS、FBS、種子生産の3つに加えて、農民組織強化の研修も行います。

BM州では5月31日～6月3日にかけて理論研修を行い、6月28日に実践研修の第1回目、7月12日に第2回目を実施しました。HB州では6月7日～10日にかけて理論研修を行い、6月30日に実践研修の第1回目、7月14日に第2回目を実施しました。

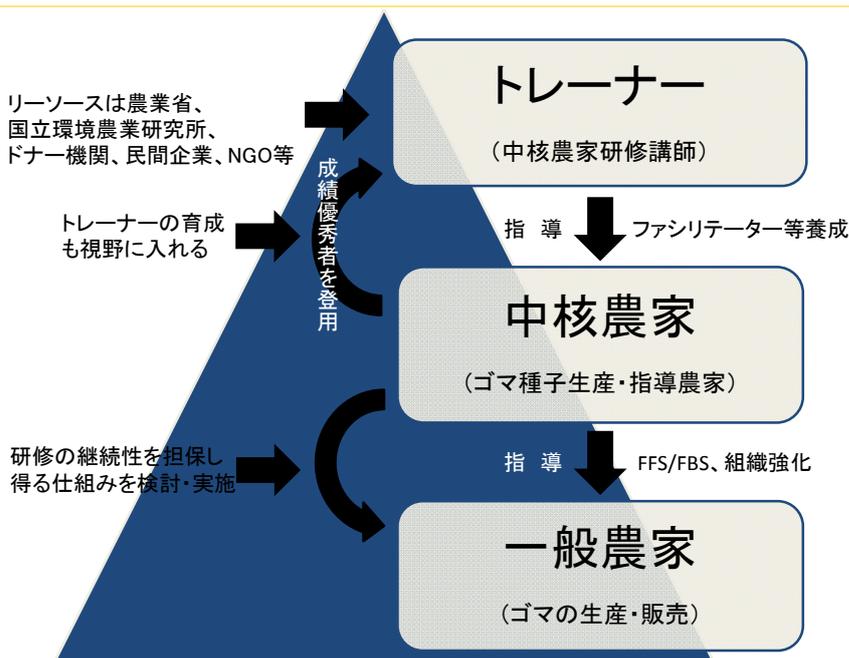
\* それぞれ、FFS=Farmer Field School（農民圃場の学校）、FBS=Farmer Business School（農民経営学校）の意味。



写真（左から）：①BM州での理論研修中に、研修の様子を見学し、中核農家に一言述べる同州農業局長。②HB州での理論研修中に、研修の様子を見学し、中核農家に一言述べる同州の旧農業局長（左）と新農業局長（右）。③実践研修の現場を訪れ、中核農家にゴマ栽培に関する重要事項である残留農薬について気を付けるように訓示を述べる中垣総括。

### プロジェクトの 技術普及研修の概念

プロジェクトでは、「対象農家のゴマの生産性と収入の改善」をプロジェクト目標と掲げて、その達成のために様々な活動を展開していますが、そのメインの活動の1つに「農家への研修」があります。右はプロジェクトが掲げる研修の概念図です。



### 普及研修の様子 (BM州)



理論研修の開会の様子。



種子理論研修の講義の様子。



FBS用の手帳の記入演習。



FFSのアクションプラン作成の様子。



FFS用区画策定の実地研修の様子。



圃場を均平にしている様子。



種子への殺菌剤の混ぜ方の説明。



列に沿う播種の演習の様子。



病虫害の観察演習。



種子生産のポイントの説明の様子。



FBSの講義の様子。



ANACES-BのVELEGDA氏を講師に招いた組織強化研修の様子。

### 普及研修の様子 (HB州)



種子生産理論の講義の様子。



FFSアクションプラン作成の講義。



FFSのアクションプラン作成の様子。



アクションプランの発表の様子。



FFS用区画策定の実地研修の様子。



播種するラインの計測の演習。



砂を混ぜた種子による播種の演習。



病虫害観察の演習の様子。



除草と中耕の演習の様子。



施肥演習の様子。



FBSの手帳記入の講義の様子。



ANACES-BのVELEGDA氏を講師に招いた組織強化研修の様子。



## 寄稿「ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト（PRPS-BF）のFFS・FBSの感想」

植防局PRPS-BF担当官 ズングラナ・ウルバン (ZOUNGRANA Urbain)

世界食糧機関（FAO）によると、農民圃場の学校（FFS）は生産者グループのための出会いや研修の枠組みであり、栽培期間を通じて圃場で実施される「壁のない」学校である。それは経験・知識の交流の場であり、生産者たちが同じ関心事のもと、ファシリテーターの支援を受け、大人向けのノンフォーマル教育のツールやメソッドを使いながら、実際の現状から圃場の管理について研究し話し合い、決定を下す。

それゆえ、圃場の学校の重要原則は発見と実験による学びである。FFSはこのように農業の革新技術を受け取る側である生産者が自分で学ぶための実践的ツールとなっている。FFSアプローチは技術パッケージをすぐに普及させる方法でもあり、FFSの参加者たちは決定に結び付いた利点や制約を知ることができる。

ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト（PRPS-BF）が開発するFFSアプローチは、ゴマ栽培で長年の経験がない生産者に向けられてたものであり、将来的に地域のゴマ生産者数を増やし、こうした生産者たちが生産技術をすぐに使いこなし、技術に磨きがかけられるようにするものである。

研修に参加するファシリテーターである生産者たちは、FFSとFBSという2つのアプローチに大いなる関心・熱意を示しており、研修後に自分たちの各々のコミュニティで実施するFFS活動にやる気を感じている。FFSの内容にかかる実践的研修は約二週間ごとに実施されるが、同研修が、参加者が各々のコミュニティで実施するFFS活動の事前準備となる。

私自身、こうした経験がゴマ生産者たちを定着させ、その生産量を向上させることで、よりよい収入をつながることを期待している。

また、この二つのアプローチ（FFSとFBS）に対する生産者たちのやる気と強い熱意が冬季の農繁期終わりまで続くことを願っている。このようにブルキナファソ国におけるPRPS-BFは、様々なアクターとともに、生産シーズン終了時には良い結果を得られることだろう。

PRPS-BFに追い風が吹くことを願っている。



BM州でのFFS/FBSファシリテーターの理論研修時に参加者の質問に答え説明するズングラナ氏。



HB州での実践研修時に参加者に研修の意義を伝えるズングラナ氏。

### ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

プロジェクト事務所

03 BP 7123 Ouagadougou 03, Burkina Faso

Tel: +226-67-37-59-80

Email: projetssesame@yahoo.fr

<http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/index.html>

### 編集室より

ブルキナファソでは雨季が本格的に始まり、ゴマの栽培、そしてゴマの普及研修も本格化しています。今号では農業省植防局のズングラナ氏に研修に対する今後の展望・期待について寄稿してもらいました。同氏は当プロジェクトの担当として、主に農家に対する普及研修やモニタリングに携わっており、これまで実施した研修にも同行しています。